

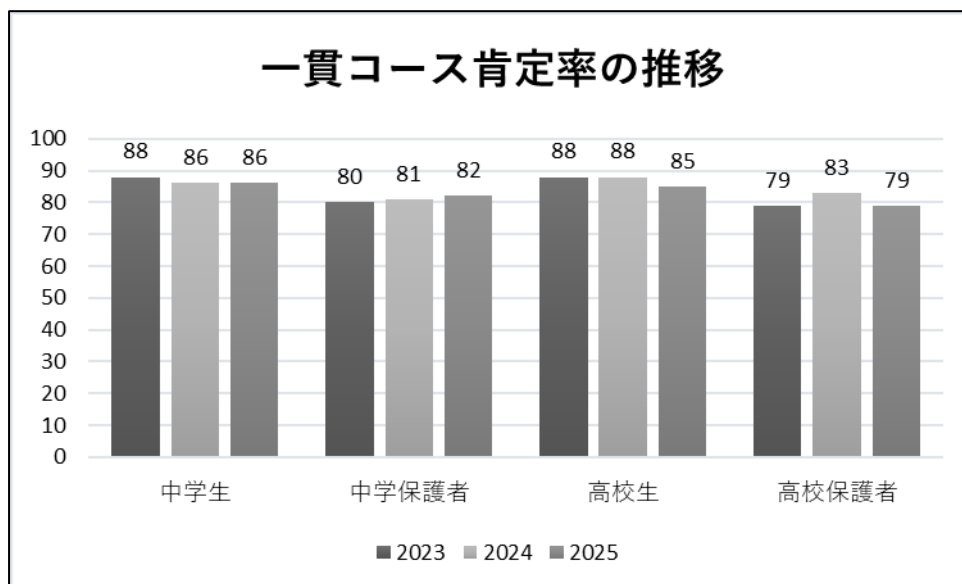
2025年度東洋大学附属姫路中学校・高等学校 学校評価総括

1. 生徒・保護者の過去3年間（2023年～2025年）の全質問項目の肯定率（それぞれの質問に対してそう思う、ややそう思うと回答した割合）の平均（％）の推移（数字は左から2023年、2024年、2025年のデータ）

(1)中高一貫コース

中学生：88・86・86 中学保護者：80・81・83

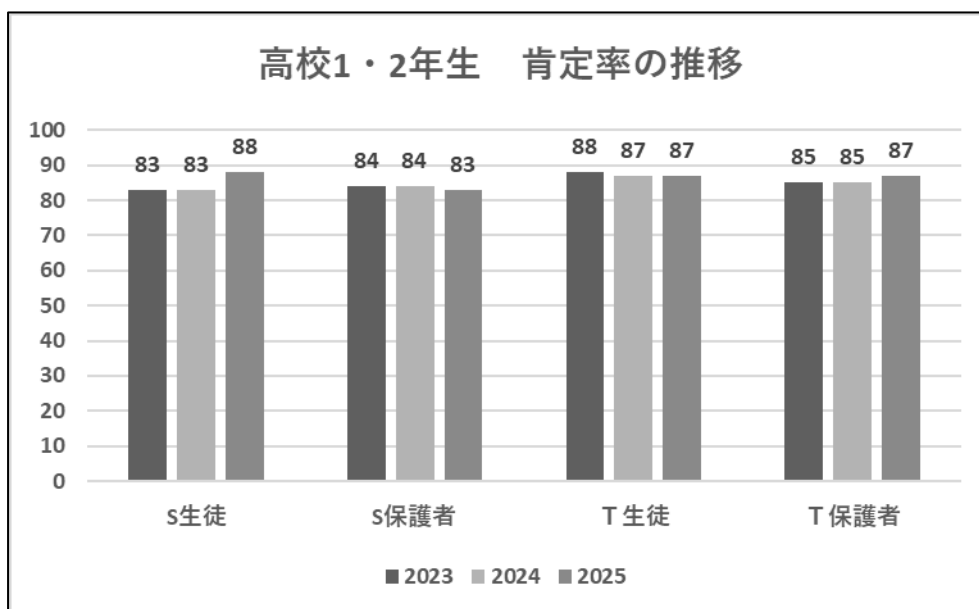
高校生：88・88・85 高校保護者：79・83・79



(2)高校入学生

Sコース生徒：83・83・88 Sコース保護者：84・84・83

Tコース生徒：88・87・87 Tコース保護者：85・85・87



このような調査においては、肯定率80%以上は高い評価であると判断する。

*2025年度の一貫コースの肯定率は、2024年に比べて中学生はほとんど変わらないが、高校生の生徒、保護者で低下した。中高の比較でいえば、昨年は生徒・保護者とも高校生の肯定率が中学生を上回ったが、本年は生徒・保護者とも中学生の肯定率の方が高くなった。

*2025年度は、Sコース生徒の肯定率が大きく上昇し、Tコース生徒は横ばいであった。いっぽう保護者については、Sコースがほぼ横ばいであるのに対し、Tコースは上昇した。

2. 質問項目 1、5、8、9、19、21 の過去3年間（2023年～2025年）の肯定率（%）の推移（数字は左から2023年、2024年、2025年のデータ）

(1) 中高一貫コース

(1)「本校に入学してよかった」	中学生：96・93・90	高校生：94・94・89
(5)「授業内容の理解」	中学生：79・75・80	高校生：87・80・85
(7)「能力・個性に応じた適切な指導」	中学生：85・85・83	高校生：84・85・81
(8)「クラブ活動の満足度」	中学生：76・75・84	高校生：79・89・88
(19)「進路実現等に向けた学力向上」	中学生：90・88・85	高校生：87・90・79
(21)「学校行事の充実」	中学生：93・94・93	高校生：90・87・86

*質問項目（1）「本校に入学してよかった」の肯定率は、中学生・高校生ともに低下した。中学生については、ここ3年でみても年々低下しており、特に中学2年生の肯定率が83%と他学年を大きく下回る結果となっており、評価委員会のなかでも「詳細な総括が必要」との指摘を受けた。質問項目（2）「本校生としての自信と誇り」の肯定率が79%となっていることからみると、学習面、生活面すべてで生徒たちが他者を尊重しながら、自己の有用感を高める機会を増やしていく必要がある。生徒指導の観点も含めて、お互いに助け合い、学びあえる環境の構築をいっそう図っていききたい。

*質問項目（5）「授業内容の理解」の肯定率は、昨年は大きく低下したが、本年は一昨年並みに戻った。これは教員が生徒の到達度をしっかりと把握し、授業評価アンケートなどをもとに、授業改善に努めていった成果ととらえることができる。今後は、(20)「進路実現等に向けた学力向上」につながるような授業の構築をめざし、教員相互の授業研鑽の機会や、さまざまな授業研修を保障し、いっそうの授業力向上をめざしていききたい

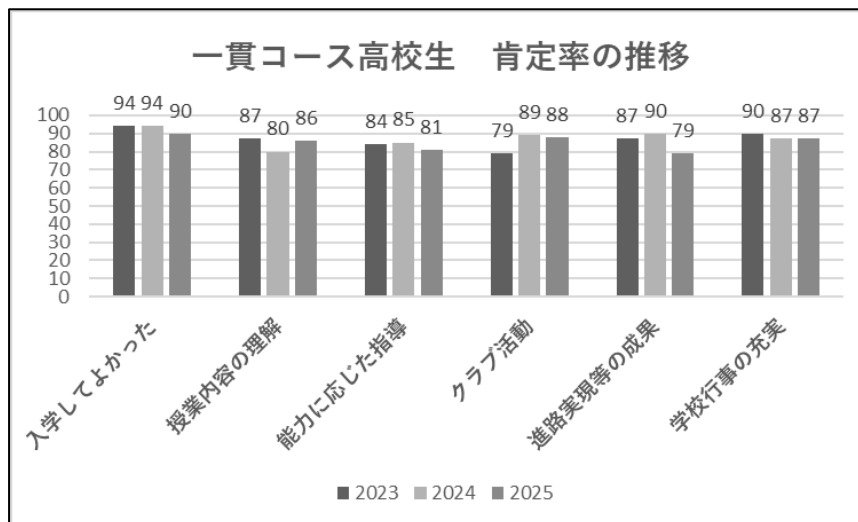
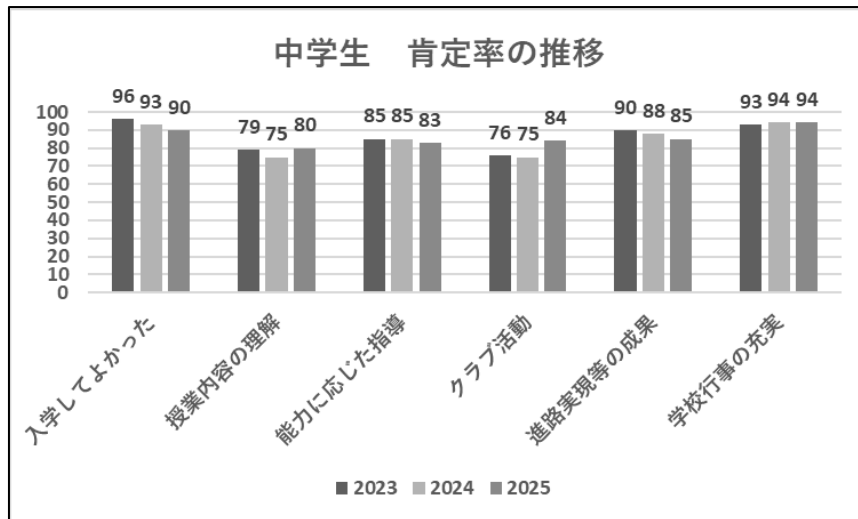
*質問項目（8）「クラブ活動の満足度」の肯定率は、本年度、中学生が10ポイント近く上昇し、高校生の肯定率に近づいた。公立中学校のクラブ活動の地域移行が進むなか、教員が活動時間を積極的に確保したことの表れととらえることができる。2026年度からは、平日のクラブ活動のいっそうの拡充を計画している。勉強とクラブがしっかりと両立できる生徒を育てていきたい。

*質問項目（19）「進路実現等に向けた学力向上」の肯定率は、中学生は昨年とほぼ変わらないが、高校生で大きく低下した。業者による放課後学習会が十分に機能しなかったことも一つの要因ではあるが、高い肯定率を誇っている「授業内容の理解」が、進路実現につながっているのかについては、各教員がいま一度検証する必要がある。より多くの生徒が自分の第一志望を実現できるよう、これまで以上に個々の学力に応じた補習をはじめとした放課デザインタイムのあり方を構築していききたい。

そのほか（3）「目標・目的意識をもった学校生活」については、中学生：81・高校生：88

（5）「課題（宿題）等の量と質は適当か」については、中学生：73・高校生：89

とともに顕著な差が生じている。中学生に対して、早期から目的意識の醸成を図るため、東大セミナーへの参加をうながすとともに、中学3年生からの1 Day Universityへの参加を含め、進路系の取り組みの強化を図りたい。また学年内の教科相互の連携を強化し、学習の定着を図ることができる課題の分量・難易度についても、引き続き検討していく必要がある。



(2) 高校入学生

- | | | |
|----------------------|---------------|---------------|
| (1) 「本校に入学してよかった」 | Sコース：83・84・88 | Tコース：92・88・89 |
| (5) 「授業内容の理解」 | Sコース：75・74・87 | Tコース：81・77・81 |
| (7) 「能力・個性に応じた適切な指導」 | Sコース：78・78・85 | Tコース：83・80・84 |
| (8) 「クラブ活動の満足度」 | Sコース：86・89・92 | Tコース：90・88・87 |
| (19) 「進路実現等に向けた学力向上」 | Sコース：82・89・88 | Tコース：91・91・88 |
| (21) 「学校行事の充実」 | Sコース：75・69・91 | Tコース：87・82・85 |

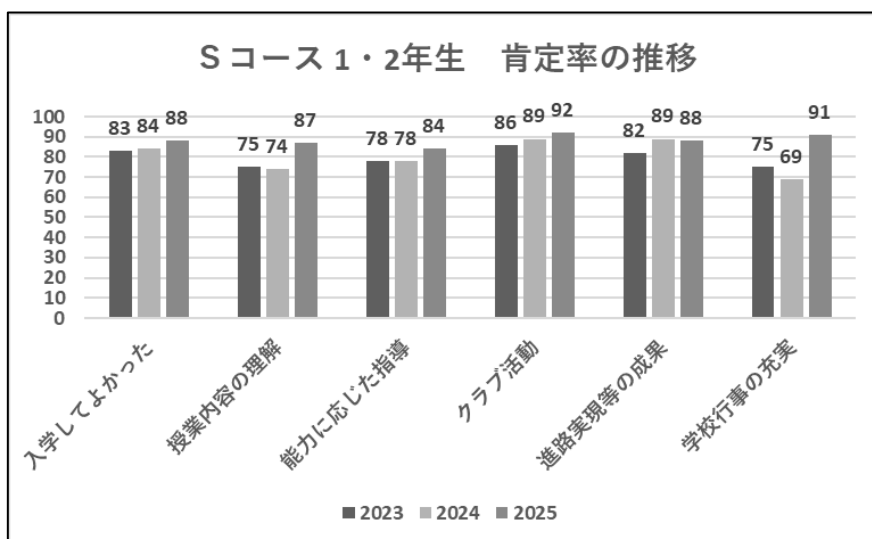
*質問項目(1)「本校に入学してよかった」の肯定率は、Tコースはほぼ横ばいであるが、Sコースで上昇した。特に高校1年生のSコースの肯定率は92%とたいへん高い数値となっている。授業を中心に放課後デザインタイムや日常の生活指導を中心に、ていねいに指導を重ねた結果が表れたデータといえる。

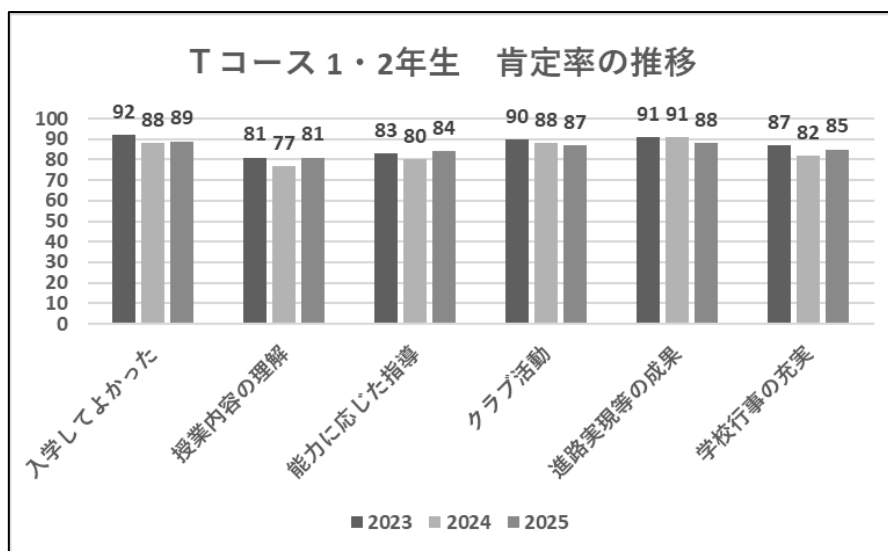
*質問項目(5)「授業内容の理解」の肯定率は、両コースとも上昇したが、とりわけSコースでは13ポイントと大幅に上昇した。これは生徒の興味・関心を喚起するための工夫を重ね、生徒ひとりひとりの到達度に応じたしっかりとした指導ができていることの表れである。これからも不断に授業についての自己研修や教員間での相互研鑽を進め、生徒たちの進路実現を可能にする授業改善を進めていきたい。

*質問項目(7)「能力・個性に応じた適切な指導」の肯定率は、両コースとも上昇し、これもSコースで

大きく上昇した。Sコースで取り組んできた放課後学習で個々の生徒に応じた指導に取り組んできたことが評価された結果といえる。これからは教員の働き方改革を見据え、特に18時以降の自学自習を効率よく実施できるよう、全教員を巻き込みながら新たなシステムを構築していきたい。

- *質問項目(8)「クラブ活動の満足度」については、Sコースで上昇しているが、Tコースではほぼ横ばいであった。Sコースのなかでもクラブ活動に参加する生徒が徐々に増えてきている現状が反映されている。Tコースはわずかながら低下しているが、満足度としてはたいへん高い数値を示している。これは本年も多くのクラブが全国大会出場を果たしたり、全国レベルでの表彰を受けた地域活性部の活躍に負うところが大きい。とりわけ甲子園では、野球部だけでなく、応援指導部・吹奏楽部が全校生徒を巻き込みながら貴重な体験を積むことができた。これからも生徒主体のクラブ運営を中心に据え、活動のいっそうの充実を図っていきたい。
- *質問項目(19)「進路実現等に向けた学力向上」の肯定率は、Sコースは高いレベルで横ばい、Tコースについては、やや低下している。本年度も、平日や長期休暇中の補習の強化に努めるとともに、難関大学に対応した模試を導入することで、Sコースについては難関大学へ複数の合格者を輩出することができた。一方、Tコースの生徒のなかには、進路実現につながる学力向上を果たせていない生徒もいる。今後はより多くの生徒が自分の第一志望を実現できるよう、進路指導部主導のもとで、これまで以上に個々の学力に応じた補習や放課後デザインタイムのあり方を構築するとともに、Tコースの幅広い学力層に対応した授業を実現できるよう、教員の研修体制をいっそう整備していきたい。
- *質問項目(21)「学校行事の充実」の肯定率はSコース・Tコースともに上昇し、とりわけSコースでは69%→91%と22ポイントの上昇を記録した。生徒会を中心に生徒の主体性を活かしつつ、すべての生徒が楽しめる行事を実現できた成果として大いに評価できる。この結果に満足することなく、これからも生徒の主体性を大切にしながら、より学びのある行事が実現できるよう、不断の点検とさらなる進化をめざしていきたい。





3. 肯定率が70%以下だった質問項目

(1) 中高一貫コース保護者（今年度←昨年度）

質問項目（5）「授業内容の理解」

中学保護者 63%←66%

高校保護者 66%←72%

（8）「クラブ活動の満足度」

中学保護者 52%←40%

*「授業内容の理解」については、中学生は80%、高校生は86%であるが、保護者の肯定率は中学生保護者が63%、高校生保護者が66%と低い数字にとどまっている。保護者に生徒たちの成績の伸びが実感してもらえるよう、授業評価アンケートや研修の機会を通じて授業改善を図ることに加えて、学外評価委員の提言にもある「AIの積極的活用」を推進するなど、生徒の学力向上につなげる施策を考えていく必要がある。また「クラブ活動の満足度」については、中学生保護者の肯定率は、52%と決して高いとはいえないが、昨年度に比べると大幅に改善している。次年度からは、平日に3日の活動日を保障しながら、運動部はもちろん、文化部も大会・コンテストへの参加を目標に活動計画を立案するなど、生徒の意見も積極的に取り入れながら、クラブ活動の充実に努めたい。

(2) 高校入学生保護者

高校入学生保護者の肯定率は、すべての項目で70%を上回った。

4. 総括コメント

本年度も「生徒による授業評価アンケート」は、1学期末と2学期末に実施した。その結果をふまえて実施した「授業評価アンケートに対する教員の意識と実態についての調査」では、ほとんどの教員が「今回の授業評価アンケートの結果は、自らの授業改善に役立つと思う」と前向きに捉えている。そのなかで学力層が幅広い一貫コースのSAコースや高校Tコースの授業をどのように工夫していくのかに苦慮している教員が多い。こうした状況を反映して、多くの教員は授業改善に向けた第1の課題として、生徒たちの「授業への関心・意欲の喚起」をあげている。また2番目に「指導方法・指導技術など授業スキルの向上」を課題にあげた教員が多かった。難関大学への進学実績のよりいっそうの向上のためには、共通テストの指導はもちろん、個別学力試験に対応できる学力を養成することが不可欠である。その目標達成にむけて、「授業評価アンケート」をもとに教員が授業力向上に向けて研修に励むことはもちろん、教員の自己評価の中で課題として指摘されている教員間の授業見学など、相互研鑽の機会をいっそう整備することで学力の三要素をバランスよく伸ばし、難関大合格をはじめとした生徒の第一志望実現にしっかり対応した授業ができるよう、研修体制を整備していき

い。

大学進学については、大阪大学・神戸大学・筑波大学・岡山大学・大阪公立大学・兵庫県立大学をはじめとした国公立大学に 67 名（準大学を含む）が合格したが、今年は S コースが多数をしめており、一貫コースの難関大学合格者については総合型選抜での神戸大学の合格を出すにとどまっている。いっぽう私立大学については、東洋大学に 7 名、早稲田大学など関東圏の大学および関関同立に 47 名、産近甲龍に 144 名と、難関大学にも多くの合格者を出すことができ、昨年より大きく実績を伸ばすことができた。さらに就職や専門学校へ進学する生徒を含め、T コースの生徒は、各自の希望に応じて多様な進路実現を果たしている。本校の生徒・保護者の大学進学希望数は年ごとに増えてきており、学力向上と進路実現に向け、各コースで授業のあり方ももちろん、放課後デザインタイムの充実を図ってきた。しかし現在の教育課程は、各コースの特性に応じたものになっているとは言いがたい。そこで次年度からは 1 授業時間を 50 分から 45 分へと変更することで、一貫コース・S コースについては週 39 時間の教育課程を編成し、授業の進度を確保するだけでなく、大学受験に向けた演習も授業の中で展開できるように計画を進めている。また T コースについては、週 30 時間の教育課程を編成し、クラブ活動を中心とした放課後デザインタイムのさらなる充実を図りたい。

こうした進路指導体制について、学外評価委員からは、「そろそろ自前で補習するのも限界がきているのかなと思う」という意見をいただく一方で、「以前の東洋大姫路高校と違うのは、進路指導部長が中心となって進路指導体制が機能しているため、学校全体で最後まで面倒を見ようという教員の意識が上がっているように思う」と、現在の体制についても一定の評価をえている。今後は「近年、多くの優秀な先生方の採用と IT 化が進んできたが、より充実したカリキュラムの編成に合わせて再びリソース不足が目立ち始めている」との提言をふまえ、授業と自学自習の両面で活用できる AI 教材を有効に活用できる体制をつくりあげていく。また、これまで蓄積してきた総合型・学校推薦型で国公立大学合格に導くノウハウを生かし、授業改善とともに補習・自学自習の取り組みを中心とした指導体制のいっそうの充実を図ることで、一般入試に向けての学力向上をめざし、国公立を中心とした大学合格者の大幅増加をめざしたい。

クラブ活動では空手道部・剣道部・柔道部そして野球部が全国大会に出場し、地域活性部は環境省などが主催する「第 20 回 SYD ボランティア奨励賞」で文部科学大臣賞を受賞するなど、大きな成果を収めた。今後は運動部だけでなく、文化部も大会・コンテストへの参加を目標に活動計画を立案するなど、生徒の意見も積極的に取り入れながら、クラブ活動のさらなる充実をめざしたい。

コース制導入 5 年目となった 2026 年度の中学入試の志願者は 277 名（昨年 284 名）とわずかな減少にとどまったが、入学者は 73 名と大きく定員を割り込んだ。今年の入試では本校を第一志望とする志願者を多く集めることができたが、それが入学に結びついていないという現状をどのように打開すればよいのか、さまざまな情報をもとに新たな広報戦略、そして入試改革を進めていく必要がある。いっぽう高校入試では、第 4 学区の生徒数減少に歯止めがかかったことや、私学授業料無償化の恩恵もあり、志願者が昨年の 3750 名から 3825 名と増加した。さらに専願者が 295 名と大きく増加したことで、4 月には 64 期生として 364 名＋一貫 80 名の計 444 名が入学した。このように定員を上回る入学者を確保できた背景には、斬新な動画作成や 100 万回以上の再生回数を誇ったインスタグラムの導入など新たな広報戦略が功を奏したところも多い。次年度は、T コースに比べると入学者が十分に確保できなかった S コース志願者の増加をめざし、入試改革を進めるとともに、東洋ブランドをさらに高めることができるような広報活動を展開していきたい。

以上の総括をふまえ、本年度の「授業評価アンケート」と「学校評価アンケート」の結果を全教職員が謙虚に受け止め、日々の授業の充実と改善に努めながら、東洋大学附属姫路中学校・高等学校のさらなる進化と飛躍をめざして取り組んでいきたい。

5. 2026 年度に向けての課題

(1) 45 分授業をベースとした新しい教育課程に対応した授業計画を立案・実践し、各コースでシラバスの見直

しを進める。

- (2) 生徒の授業内容の理解が高まるよう、教員が自己研鑽できる機会を増やすとともに、教員の授業研修体制をいっそう整備する。
- (3) 放課後デザインタイムを整備するとともに、授業や生徒の自学自習をサポートする教材として、全校生徒を対象にA I教材を導入することで、学びに向かう姿勢を高めていく。これらの施策を通じて難関大学合格者の増加を図るとともに、多様な進路の実現につなげていく。
- (4) 中学入試における入学定員の確保と高校入試でのSコースの入学者増をめざし、入試改革を進めるとともに、地道な塾まわり、中学校まわりを強化しながら、広報活動のいっそうの充実を図る。